

# 高橋 Dr.

## 経歴

東海大学 医学部 医学科卒業  
茅ヶ崎徳洲会総合病院  
葉山ハートセンター  
湘南鎌倉総合病院  
名瀬徳洲会病院（奄美大島）

## 資格

麻酔科 専門医・指導医  
内科 認定医  
産業医、臨床研修指導医  
ACLS Provider, ALSO Provider

医師

高橋 正憲

たかはし まさのり

## 新ドクター紹介

さらに新しいドクターが加わりました。

おはなほっぽクリニク  
の野口院長と大学の同期で、  
徳洲会と共に研鑽を  
積んだ仲間でもあります。  
どんなに辛い状況であつても、患者さんに笑って  
もらえたら嬉しい。皆様の  
を、全力で受け止めて行き  
ます！

多才。神輿担ぎ、革細工、写真、ヨット、バイオリン等々・・・



# おさじ

## 1月号

### こんどう 整形外科

令和三年一月一日発行  
医療法人社団泰大会おさじ委員会編集

こんどう整形外科に 新設の『内科』を徹底解剖！

季刊誌 Vol. 17

# 内科

こんどう整形外科の

全人的医療の入り口。

シクラメン  
「花言葉」内気 はにかみ

## 付録 泰大会で受診可能な検査

検査は、身体の状態を知る大切な機会。泰大会の2つのクリニック、こんどう整形外科と、薬師台おはなほっぽクリニックでは、たくさんの検査が可能です。

※検査が必要かどうかは医師の診断によります。まずは各クリニックにお問合せください。

- 胃カメラ
- 大腸カメラ
- 心電図
- 24時間心電図
- 呼吸機能検査
- レントゲン (全身)
- 認知症検査 (長谷川式)
- 睡眠時無呼吸 (簡易検査)
- CT (全身)
- 骨密度検査
- 動脈硬化検査
- ピロリ菌検査
- 尿検査
- 便潜血検査
- 視力検査
- 聴力検査
- 下肢静脈瘤検査
- 血液検査 (血球数、血糖、脂質、肝機能、腎機能、貧血、感染症など、腫瘍マーカー)
- 超音波 (エコー) 検査 (心臓、頸動脈、甲状腺、乳腺、腹部など)
- 町田市成人健康診査
- 一般健康診断

一覧に無いその他の検査については、各クリニックにご相談ください。

たいだいかい  
医療法人社団 泰大会  
HighSense High Touch  
人に優しい医療と介護でみんなを HAPPY に！

こんどう 整形外科

陽花あ 鍼灸 マッサージ 院

薬師台おはなほっぽクリニック

薬師台おはな接骨院 & 鍼灸 マッサージ 院

薬師台おはな 介護相談所 薬師台デイサービス おはな

おさじとは、江戸時代の大奥などで医師を示す言葉でした。身体に栄養を運ぶ“おさじ (スプーン)”のように、皆様に楽しんで頂ける情報をお届けしてまいります。

薬師台おはなほっぽクリニックのみ可能

# 「内科」とは

## 全人的医療。

身体の内には、宇宙にも例えられないほど、奥深い世界が広がっています。

日進月歩の研究により、体内組織では、以前に知られてきたよりも、はるかに複雑な相互作用が働いていることもわかってきました。

つまり、症状の原因は何か。それを突き止めるためには、不調をきたしている部分だけではなく、相互に関連している、全身の様々な状態を総合的に診る必要があります。

その意味において、内科は、からだ全体を見渡す、『全人的医療』を体現する診療科といえます。

## 「生活習慣」と内科。

「食べること即ち薬なり、薬即ち食べることなり」（薬食同源）という言葉がありますが、食行動をはじめ、運動習慣や睡眠などの生活習慣も、悪性腫瘍などの病気に大きく関与していることがわかってきました。予防医学の観点からみれば、内科は「生活習慣そのもの」とも表現できます。



鈴木 Dr.

## 医療の入り口。

「おなかが痛い」「調子がすべれない」など、身体の中で起る症状はたぐいさありません。でも、何が原因なのか、わからない。そんな時、まず相談するのが「内科」。症状を元に、様々な検査を行い、原因となる身体の変化をとらえる。

内科は、『医療の入り口』となる診療科なのです。



## 三十年を超える歴史。

こんどう整形外科は、ここ町田で、患者様と共に長い歴史を刻んできました。

一方で、地域の高齢化は必然的に、内科的疾患の増加と比例します。

整形外科と内科は、高齢化社会において、最も患者層の多い診療科です。

こんどう整形外科は、内科を加えることで、健康寿命の延伸に寄与していただくを使命としています。

整形外科に通院されている患者様は、運動制限のある方が多くいらっしゃいます。

内科では、患者様の運動機能を把握することで、それに配慮した判断を行うことが可能になります。

例として、転倒や転落のリスクがある場合には、薬による糖尿病や血圧のコントロールを調節して、ふらつきが出ないよう薬の処方と配慮するといった『整形外科と内科との連携』を行うことが出来るのです。

## 「内科」の特色。

### こんどう整形外科の



## スムーズな連携。





※諸般の事情で、影絵での登場です。(^^)「診察室でお会いしましょう！」

### 子育て中。

日常では、わんぱくな男の子2人を育てています。体が二つ欲しいほどですが、楽しく仕事と育児が出来ています。今後は家族でキャンプに挑戦したいです！

### 経歴

国立浜松医科大学卒業  
東京医科歯科大学 循環器内科 所属  
北里大学 内分泌代謝内科 助教  
関連病院（大学病院、武蔵野赤十字病院、草加市立病院、等）で研鑽

### 資格

日本内科学会 認定内科医  
日本内科学会 総合内科専門医  
日本循環器学会 循環器専門医

医師  
谷中 妙子

やなか たえこ

長く、循環器を専門としてきました。循環器の分野には併存疾患も多く、幅広く勉強することで、内科医としての総合力をつけたいと思いました。そこで、現在は北里大学 内分泌代謝内科にも所属して、糖尿病についても研鑽をつんでいます。

# 谷中 Dr.



スタッフの声

勉強熱心なドクター

バイタリティに溢れています！

親身になって話を聞いてくれる

医師  
鈴木 奈々

すずき なな

健康管理学（予防医学）の分野を研究しています。生活習慣病は、生活習慣によって変化した体質、と捉えることが出来ます。

長年の習慣を頑張つて変えようとしても、継続が難しい。目標を共有し、例えば孫と遊びたい、旅行に行きたいなど、目的に合わせて

た疾病との付き合い方を、共に考えて、提案していきたい。そういった「患者様と共に歩む医療」を目指しています。

食べられる作物を育てるのが趣味です。今、興味があるのはルバーブ（ダイオウ属）。属内の植物は漢方にも使われ、ミネラルバランスがとても良く、便秘薬としても有名です。

### 家庭菜園。



### 経歴

東海大学 医学部 医学科卒業  
東海大学医学部付属病院 前期研修 修了  
東海大学 医学研究科 先端医科学専攻

### 資格

日本内科学会 認定内科医  
日本医師会 認定産業医  
日本人間ドック学会 人間ドック認定医

スタッフの声

キョーゴドクターズ

物知り・積極的・行動的！

頼れる「こんどう整形・園芸部」顧問！



# 鈴木 Dr.

# 河越 Dr.

医師  
河越 尚幸  
かわごえ なおゆき



ドライブ。

車が趣味です。木更津や御殿場などのアウトレットモールへのドライブを楽しんでいましたが、コロナが落ち着くまではお預けです。

優しい！とにかく温厚  
運転で眠くならないコーヒーが好き  
車が好き！

スタッフの声



こんどう整形外科の内科 ドクター紹介

糖尿病が専門。内科の中でも、心臓、脳、腎臓など広範囲に影響が及ぶ糖尿病は、「全人的医療」を体現できる科の一つだと思います。大学の総合内科は、急性期の症状を鑑別して、慢性期の治療へとつなげる、橋渡しの役割を担っています。原因不明の症状を診ることも多く、様々な可能性を探求していく現場です。

## 経歴

埼玉医科大学 医学部 医学科卒業  
東邦大学大学院 医学研究科 博士課程修了  
東邦大学 医学部 内科講座 糖尿病・代謝・内分泌学分野（佐倉） 助教等を経て現在、  
東邦大学 医学部 総合診療・救急医学講座 助教

## 資格

日本内科学会 認定内科医  
日本医師会 認定産業医  
臨床研修指導医

こんどう整形外科の内科  
特別コラム

# 変わらぬ基本。

## 治療法の進化。

糖尿病の分野での研究は大きく進んでいます。例えば、インスリン治療。効き目の長いインスリンが開発され、現在ではより生理的なインスリン分泌に近い投与が可能になりました。さらに今後は、注射しかなかった薬剤が飲み薬に変わっていく、さらに貼り薬



の実用化も数年以内でしょう。そして、その先には、インスリンを産生する膵臓のβ細胞を培養する再生医療へと、さらなる進化が期待されています。



## 習慣のデータ化。

アップルウォッチなどの生体測定装置が普及し、精度が上がっていくと、生活習慣を客観的にデータ化することが出来ます。そういった情報が大規模に集約されれば、今まで知られていなかった、生活習慣と疾病との因果関係が見えていく可能性があります。正確な統計情報から、疾病の様々なリスクが明らかになり、正しい生活習慣の概念が大きく変わっていくかもしれません。



## 「よく診る」ということ。

「身体をよく診る」  
未来も変わらぬこの基本を、大切にしていきたいと思っています。

昔は、精密な検査の出来ない環境で、臨床所見（＝問診や触診などで身体を診ること）をしっかり取ることで、様々な疾病に対応していました。例えば、停電になったら何も診られないとなれば、昔の臨床医よりも進歩しているといえるかどうか。最新技術だけに頼らない「臨床の技量」は、これからも問われていくのだと思います。



# 内科の未来と、